

住民ワークショップによる地域防災活動の課題に関する研究

愛媛大学工学部

○小澤 望

愛媛大学防災情報研究センター 森 伸一郎

1. はじめに

南海トラフ巨大地震や豪雨災害・土砂災害などを共通の災害リスクとする地域において、公民館活動や自主防災会活動として行政・住民・専門家といった多様なステークホルダーが参画した防災減災活動が重要である。このような活動には地域防災リーダー育成が不可欠で、その対策もなされている。しかしながら、活動は一部の熱心な住民に偏り、広く浸透していないことが多い。このような問題点を解決することを目的として、防災活動の拡大・浸透の必要性や将来像を地域内で共有するためのワークショップを行った。

2. 地域防災活動の地域内拡大のためのワークショップ

西条市の神拝地区は、自主防災組織と公民館が連携して、毎月関連行事を行うなど地域防災活動が熱心な地区である。西条祭りの山車運営などで平常より地域の団結は強い。しかしながら、地区の防災活動では、一部の熱心な住民に偏り、広く浸透していないことが問題として認識されていた。この問題を解決するために、住民を対象にしたワークショップを実施することとし、それに先立ち、リーダーのみでプレ・ワークショップを行い（2017年6月14日（水））、事前に研修して本番のワークショップ（2017年6月14日（水））に臨むという構成で事業を進めた。ここでいうリーダーとは各町会の代表者（8名）と公民館の館長・主事（3名）である。

3. KJ法によるワークショップ

KJ法による進め方は、以下の手順によったり。

- [1] ブレーンストーミングにより解決すべき課題を決定する →プレ「神拝地区の地域防災活動が活発でない」
- [2] 解決すべき課題に関する問題点に関して各自がカード記入する（単位化）
- [3] 記入されたカードをグルーピングしてグループの名前を付ける（統合化）
- [4] 因果関係などの関係構造を意識してグループごとに並び替える（図解化）
- [5] 追加された問題を併せてブレーンストーミングにより問題の構造化の再検討（構造化）
- [6] グループ名修正や並び替えで要因と因果関係の構造を明確にする（要因と因果の構造化）

段階[2]で書き出された問題は58であり、17のグループ（要因）に分けられ構造化された。図-1に住民リーダーが実施したKJ法による課題に関する問題要因の構造化の成果をそのまま図化したものを示す。それぞれの書き出された問題は住民の飾らない気持ちが現れている。因果関係を考えることにより、住民や地域の特性、行政の問題などに対して地域リーダーの果たすべき役割が自然と認識されているのがわかる。図-2にKJ法によるワークショップの成果を基に再構成した課題要因図を示す。因果関係を示す線は引かれていないが、地域特性、住民、リーダー、行政、そして住民とリーダーの関係の5つの要因に分けられることが導かれた。これに基づけば、住民とリーダーの間、行政とリーダーの間のリスクコミュニケーションが解決の糸口となる。

4. 結論

KJ法によるワークショップを通じて、地域防災活動の拡大と浸透を阻んでいる問題の要因として、住民、市役所、自主防災活動などの中でも根本的要因として防災リーダーの役割が大きいことを、住民自ら理解することができた。また、地域特性、住民、リーダー、行政、そして住民とリーダーの関係の5つの要因に分けられることが導かれた。これに基づけば、問題解決の糸口が見つかることがわかった。

謝辞：神拝公民館、神拝地区の皆様には大変お世話になりました。また、文部科学省委託の地域安全学会の「リスクコミュニケーションのモデル形成事業」の一環として実施しました。ここに記して謝意を表します。

参考文献： 1) 川喜田二郎：発想法 - 創造性開発のために、中公新書、1967。

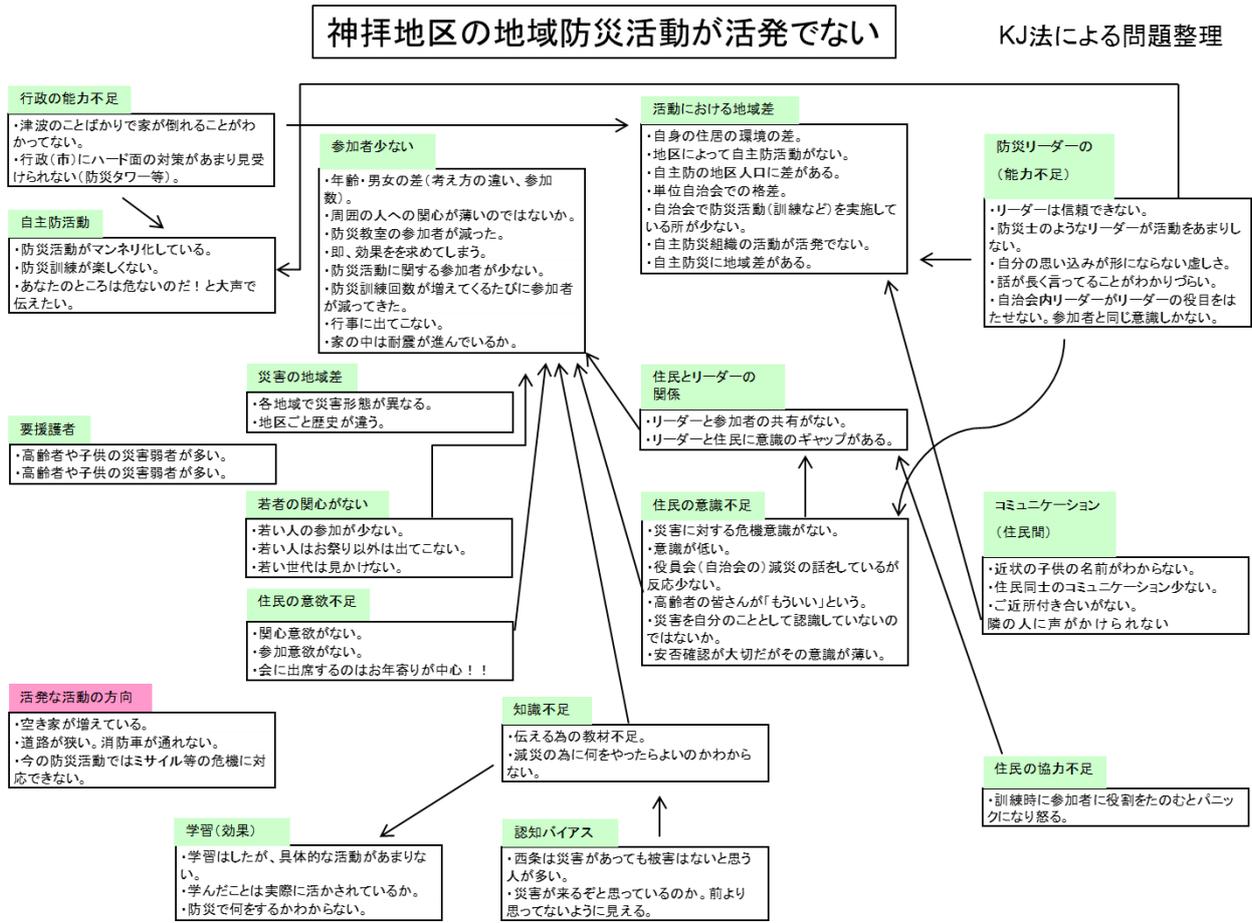


図-1 KJ法による課題に関する問題要因の構造化の成果をそのまま図化したもの

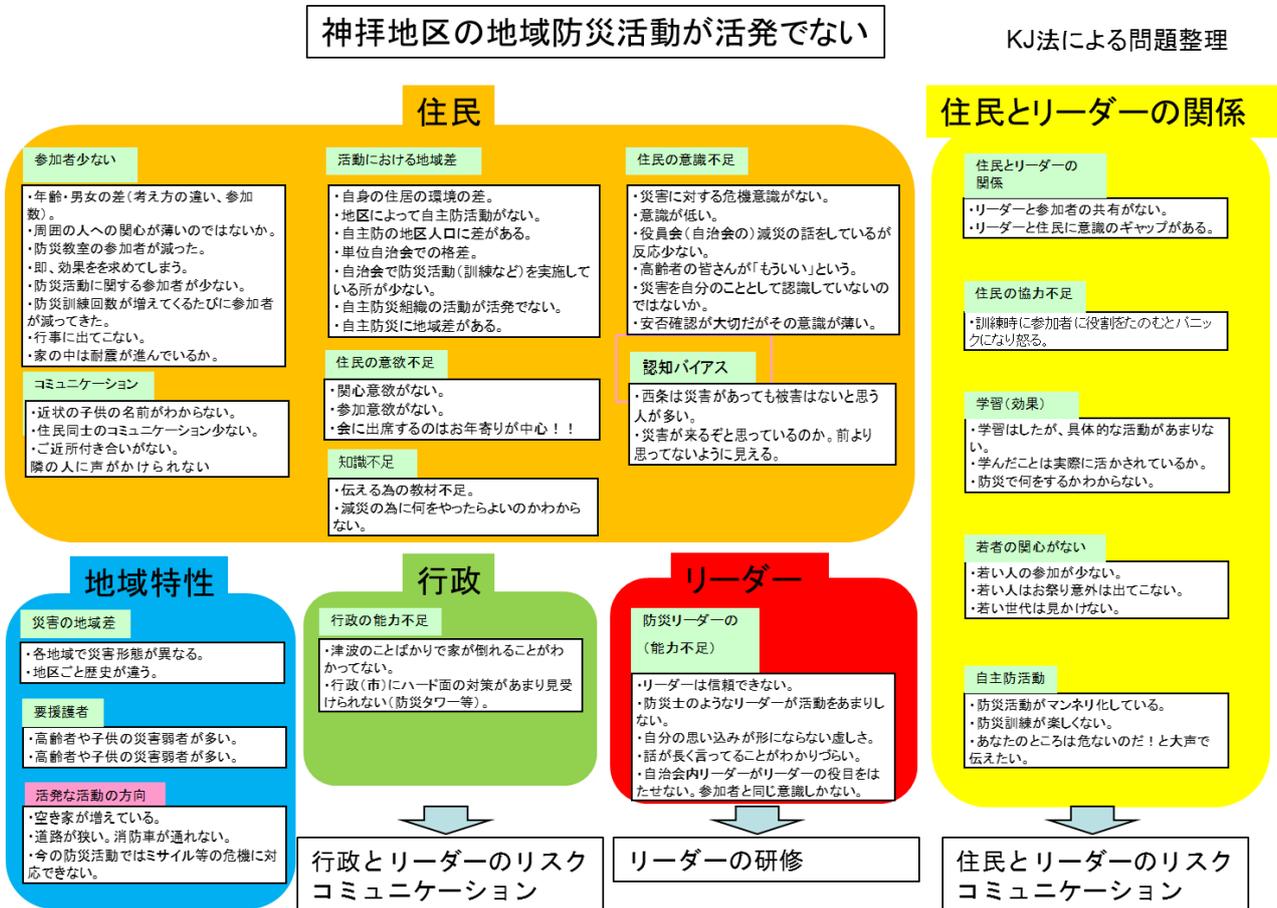


図-2 KJ法によるワークショップの成果を基に再構成した課題要因図